

2019年度 第61回 菅平夏季大学案内

【主催 小県上田教育会・公益財団法人小県教育会】 【後援 長野県教育委員会・上田市・上田市教育委員会・信濃教育会】

今年度も菅平のふもと「真田の里」で「菅平夏季大学」を開講します。お誘い合せて受講くださいますようご案内申し上げます。

1 日程		7月30日(火)	7月31日(水)	8月1日(木)
	【開講式】9:30	午前の部 9:45~12:00 「芸術」	「科学」	「教育」
		午後の部 13:15~15:30 「歴史」	「スポーツ」	「哲学」
2 会場	真田中央公民館	上田市真田町長 7199-1		
3 受講料	無料			
4 講座				【閉講式】15:40

7月30日(火) 「芸術」 9:45~12:00 聖徳大学音楽学部音楽総合学科准教授 松井 孝夫 先生
「音楽は人の心をつなぐ ～学校教育の中の合唱という文化～」
 合唱曲にこめられた思いや願いをたどり、人は歌を通じて、何を感じ、何を求め、何を表現しようとしているのかを考えていきます。曲の背景を知る前と後では、音楽の感じ方がガラッと変わることがあります。本日、皆様と共に心を合わせて一期一会の合唱をお楽しみいただけましたら幸いです。
【講師紹介】 1961年 東京都生まれ。東京学芸大学D類音楽科(作曲選修)卒業 同大学院音楽教育研究科修了
【主な合唱作品】 「マイバラード」 「そのままの君で」 「はばたこう明日へ」 「流れゆく雲を見つめて」 「自分らしく」 「ここにいる幸せ」 他多数。
 また「旅立ちの日に」など編曲。
【著書】 『音楽文化研究』第13、15、16号研究ノート(2014、2016、2017 聖徳大学 共著) 『音楽科教育』(一藝社 2015 共著)

7月30日(火) 「歴史」 13:15~15:30 郷土史家 尾崎 行也 先生
「上田藩女改帳にみる女たち」
 江戸時代前期の宗門改帳には、当時の女たちに関わる記録がみられる。その記録から当時の社会の一端を探ってみたい。また「女質置(しちおき)」と「女房證人」についての資料もみてゆくことにする。
【講師紹介】 1933年 上田市生まれ。長野県内高校教諭を経て、長野県立歴史館・望月町歴史民俗資料館等に勤務。現在、生涯学習団体上田社会教育大学等講座講師。
【著書】 江戸庶民の生活史講座 『近世銭勘定或問(わくもん)』 『風呂屋・髪結・祭礼踊』 『御用!』 『江戸の旅』 『古文書のなかの食』 『さんざめく城下町』 『江戸時代の家具・農具をさぐる』 『書簡・廻状・風聞書』 『近世庶民の衣類』 (いずれも八十二文化財団 2008~2018)

7月31日(水) 「科学」 9:45~12:00 中村浩志国際鳥類研究所代表理事 中村 浩志 先生
「野鳥を通して日本の自然と文化を考える」
 信州大学の学生の頃からカッコウ、ブッポウソウ、ライチョウ等、実に様々な鳥を研究してきました。そこから見えてきたことは、自然との共存を基本にした日本文化のすばらしさです。教育とは何かにも言及しつつ、私の70年にわたる歩みを振り返ります。
【講師紹介】 1947年 坂城町生まれ。信州大学教育学部卒業。京都大学大学院修士課程修了、同博士課程単位取得。理学博士。信州大学教育学部助手、助教授を経て、1992年より教授。専門は鳥類生態学。2012年に信州大学を退職。名誉教授。現在は、一般財団法人 中村浩志国際鳥類研究所代表理事。
【著書】 『戸隠の自然』 『千曲川の自然』 『軽井沢の自然』 『歩こう神秘の森戸隠』 (ともに信濃毎日新聞社)、 『甕れ、ブッポウソウ』 『ライチョウが語りかけるもの』 (ともに山と溪谷社)、 『二万年の奇跡を生きた鳥 ライチョウ』 (農山漁村文化協会)、 『ライチョウを絶滅から守る!』 (しなのき書房) 等

7月31日(水) 「スポーツ」 13:15~15:30 東海大学体育学部体育学科教授 内田 匡輔 先生
「2020から始まる体育・スポーツ」
 来年、2020東京オリンピック・パラリンピックは、レガシー(遺産)として何を残すのでしょうか。学校でのオリパラ教育や保健体育授業は、終わったあとに真価が問われます。今、私たちが考えておくべき体育・スポーツの多様な視点を整理します。
【講師紹介】 1970年 東京都生まれ。筑波大学大学院体育研究科 修士課程修了(1996年) 筑波大学附属聾学校中学部保健体育科教諭(1996年~2000年) 筑波大学附属中学校保健体育科教諭(2000年~2005年) 東海大学体育学部体育学科(2005年~現在) 早稲田大学非常勤講師(2016年~現在) 長野県体育センター研修講座講師(2011年~現在)
【著書】 『これからのインクルーシブ体育・スポーツ』(2017 ぎょうせい) 『中学校 新学習指導要領の展開』(2017 明治図書) 『教養としてのアダプテッド体育・スポーツ』(2018 大修館書店)

8月1日(木) 「教育」 9:45~12:00 元日野市立日野第三小学校長・日本授業UD学会監事 京極 澄子 先生
「発達障害の理解と、どの子ども輝くユニバーサルデザインの教育」
 通常学級の中には、発達障害の特性のある子や学びにくさのある子が在籍し、苦戦しています。こうした子ども達を含め、すべての子ども達が、「楽しい! わかった、できた!」という学校生活を送り、自己肯定感を育むには、学校・教師・保護者はどのような工夫をすればよいのでしょうか? 多くの工夫事例や、模擬授業を通して考えます。こうした工夫は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善にも通じます。
【講師紹介】 1950年 東京都生まれ。千葉大学教育学部卒。東京都立小学校教諭で21年間、管理職で19年間過ごした後、明星大学発達支援研究センターに3年間勤務。昨年4月よりフリー。日本授業UD学会監事。平成19年度より日野市立日野第三小学校に校長として勤務し、「発達障害の理解」、「特別支援教育のスタンダード」、「ユニバーサルデザインの授業づくり」などを学校全体で研究してきた。
【著書】 『通常学級での特別支援教育のスタンダード』(共著 東京書籍) 『説明分授業のユニバーサルデザイン』(共著 東洋館出版社)

8月1日(木) 「哲学」 13:15~15:30 奈良女子大学文学部人間科学科教授 西村 拓生 先生
「木村素衛におけるアイデアと救済 ——教師の仕事に導くもの、支えるもの——」
 上小に縁の教育哲学者、木村素衛(1895-1946)は戦前から敗戦後にかけて何度も信州を訪れ、教師の仕事に根底において導き、支えるものについて語りました。この深い肯定と、その裏にあった人間性の「悪」への厳しい自覚について考えてみたいと思います。
【講師紹介】 1962年 上田市(旧丸子町)生まれ。京都大学大学院教育学研究科博士後期課程中途退学。奈良女子大学文学部教授。美や芸術と人間形成の関係について思想的・原理的に考えるのが研究テーマです。
【著書】 『子どもの表現活動と保育者の役割』(明治図書 1998) 『教育哲学の現場——物語りの此岸から』(東京大学出版会 2013) 『「人間と教育」を語り直す——教育研究へのいざない』(ミネルヴァ書房 2012 共著) 等

5 交通案内 (上田バス Tel0268-22-1504) 上田駅3番乗り場 → 真田自治センター入口 徒歩2分 片道 ¥300
 往路 【菅平行き】 8:15 ・ 8:40 → 8:38 ・ 9:05
 復路 【上田行き】 12:33 ・ 16:43 ・ 17:05 → (上田駅) 13:00 ・ 17:10 ・ 17:30

6 その他
 ・受講される際は、真田中央公民館夏季大学会場入口にて受付をお願いします。
 ・講義中はエアコンを使用します。必要な方はひざ掛け等ご用意ください。
 ・夏季大学へのお問い合わせは右記までお願いします。

小県上田教育会
 上田市大手 2-7-13
 TEL 0268-23-1151